



ゆうメール



青峰同窓会

会報
2023年号



奥州平泉中尊寺金色堂

INDEX

会長挨拶	1
教務主事挨拶	2
卒業生からの便り	3~5
■ 須場 峻介	
■ 堀 康典	
転任教員挨拶	5
■ 小俣 香織(材料工学科)	

第58回鈴鹿高専高専祭	6
お知らせ	7
■ 鈴鹿高専は皆さんのUターンを支援しています	
2022年度 会計報告	8
編集後記	8

誌名
青峰同窓会会報

発行日 2023年10月
発行 国立鈴鹿工業高等専門学校 青峰同窓会 広報委員会
〒510-0294 鈴鹿市白子町 TEL059-386-1031 E-mail:almn@suzuka-ct.ac.jp



ご挨拶

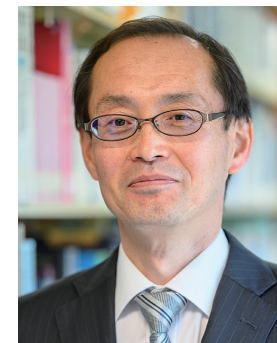
青峰同窓会 会長
小手川 智
(42C卒)

同窓会会員の皆様におかれましてはお変わりなくお慶び申し上げます。2019年に発生した新型コロナウイルス感染症は2類相当に指定され世界中にとんでもない影響をもたらしました。

国内においては2020年開催予定の東京五輪が1年延期、三重国体は中止となり関係者にとっては大きなショックとなりました。社会、経済共に行動制限がかかりマスク着用、対面での食事、大掛かりな集会、学校授業等に自粛が推奨されて日常が壊れて-行くのを痛感しました。全国で行われてきた卒業生の会合、懇親会も昨年まで開催されずコロナ禍の終息を待ち望んでいました。そして今年5月に感染症2類相当から5類に移行された結果、様々な制約から解放されて国内のお祭り、イベント、スポーツ競技、学校行事等がコロナ発生以前の開催規模にほぼ復活しました。卒業生の懇親会も三重県内でサッカー部OB会、ゴルフコンペ、三重県応援隊等がそれぞれ30人規模で早速開催されました。今後、同窓会員の皆様の交流が盛んに行われますことをお願い申し上げます。

同窓会に対して竹茂校長からご依頼がありました。文部科学省からの募集である「高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業」に応募すると云うことでありました。鈴鹿高専は事業名称〈スタートアップ支援総合空間を核とする起業マインド育成エコシステムの構築〉で応募して採用されました、予算額は約1億円です。同窓会の支援内容の具体的なことは決まっておりませんが、卒業生のなかには起業して成功された方が多数おりますので、成功体験や苦労したことをご披露できるでしょう。

最後になりますが、今年も様々な災害が多発しております。地震は予告無しに発生します。ゲリラ豪雨、ゲリラ雷雨、線状降水帯による集中豪雨による河川氾濫、内水氾濫、土砂崩れなど想定外ともいえる災害となっています。どうぞ「我が事」と思ってください。ハザードマップで確認して下さい。同窓会員の皆様のご健康とご多幸を祈念してご挨拶いたします。



教務主事から 同窓会会員の皆さまへのご挨拶

教務主事
田添 丈博

今年度より教務主事を拝命しました、電子情報工学科の田添丈博です。どうぞよろしくお願いいたします。

私が鈴鹿高専の電子情報工学科に着任したのは1993年(平成5年)4月です、この4月でちょうど30年間を務めることができました。これまでの人生の半分以上を鈴鹿高専で過ごしていることになりますし、60周年を迎えた鈴鹿高専の歴史から見ても約半分に携わってきたことになります。鈴鹿高専に対する感謝の想いと共に、残された教員生活で少しでも恩返しができればと思うようになりました。教務主事在任中は教務関係を中心に、鈴鹿高専がよりよくなるように日々努めてまいります。60年に渡る鈴鹿高専OB・OGの存在はとても心強く、いろいろな場面でいろいろな形でご助力いただければ幸いに存じます。

さて、この3月に新任教務主事の研修会が東京でありまして、その中で高専が育成する人材像の話がありました。高専はよく「高度経済成長を背景に、技術者を養成する教育機関」と言われるのですが、時代の変化・社会構造の変化とともに育成する人材像も少しずつ変わってきております。研修資料より抜粋して紹介します。

1962年(昭和37年)中堅技術者を養成

1950年代後半、我が国の経済成長はめざましく、それを支える科学・技術の更なる進歩に対応できる技術者養成の要望が強まる。産業界からの要請に応じて、1962年に国立高等専門学校が設立される。

2008年(平成20年)幅広い場で活躍する 多様な実践的・創造的技術者の養成へ

制度創設後45年が経過し、産業における技術の急速な高度化や、我が国の工場が製造拠点から開発拠点に変化してきている等、技術者を巡る国内外の状況は大きく変化している。高専教育を充実し、ものづくり技術力の継承・発展とイノベーションの創出を目指す。

2016年(平成28年)高度な実践力と更なる 成長の可能性を兼ね備える人材を育成

これまで生産工程の中心的・指導的役割を担う技術者の育成に貢献し実績を上げてきたが、今後は更に社会・人・モノ・あるいはサービスとのつくりとをつなぐ視点を持ってコト作りにも貢献できる高度な技術者を養成することが必要である。

2022年(令和4年)社会変革を実現、促進する 人財育成

世界的な問題解決、デジタル化の進展に伴う産業構造への影響、少子化による社会構造の変化に対応し、新たな社会、産業構造を構築することができる人財育成が高専に期待されている。我が国の未来をけん引する大学・高専と社会の在り方について考えていく。

実践的な技術者の育成に関しては、一貫して変わっておりません。創造あるいはイノベーションといったキーワードが加わり、授業でも発想・アイデアを重視するようになりました。さらにモノだけでなくコト(サービスや経験、ソフトウェア)までも対象に含めるようになり、全国の高専で工学に収まらない学科も誕生しています。現在は問題解決や社会実装、社会変革(世界を変えていく)という言葉まで使われるようになり、アントレプレナーシップ教育やスタートアップ教育が組み込まれつつあります。

これらの変化は高専の歴史から見れば比較的最近のことで、社会の変化の速さと高専の存在意義の高まりが合わさったものと捉えています。今後の鈴鹿高専はこの流れに柔軟に対応していき、未来を見越した教育機関へと進んでいく所存です。同窓会のみなさまにも温かく見守っていただきますことと、さらに鈴鹿高専の進化に加わっていただけることを願っております。

卒業生からの便り

Thinking from scratch —わくわくを探して—

須場 峻介 (H26M卒)

2023年4月より鈴鹿高専の総務課施設係に着任致しました、H21M17須場峻介(すばりょうすけ)と申します。席次で気付いた方も多いと思いますが、鈴鹿高専の卒業生です。機械工学科本科を卒業して、今年3月までは総合機械メーカーでSE(セールスエンジニア:営業技術職)として約9年間務めており、この度、ご縁があり母校で採用頂く事となりました。

前職では、お客様の望んでいる機能・性能をシステムに組み込む検討(要件定義)業務を主として、商品の販売、展示会での商品紹介やお客様へ機械・システムを導入するエンジニアとして活動しておりました。そこで培われたお客様との合意形成能力や商品の適応範囲の定義能力は、広義では人とのコミュニケーション能力そのものであり、多くの課題に対して根拠に基づく最適解を導くスキルとして、「働くため」だけではなく、「より良く生きるため」にとても大切なものを、社会人生活で学ぶ事が出来たように思います。一般企業から公務員と全く違うフィールドへの転職となりましたが、これからも社会貢献を以てより良い生活を送るために、個人ではなく、家族や同級生、様々なコミュニティを大切に日々邁進しております。

そんな中、私事ではありますが、「趣味で楽しい

新しい事をしよう!」と幼馴染3人でDAO(Decentralized Autonomous Organization)を立ち上げました。LP(ランディングページ)を作成し、活動用にソーシャルトークンを発行して3人で分けて所有しています。現在の主な活動内容は友人の電子書籍を広める環境作りになりますが、将来的には、仮想空間上に個人作家が自由に作品を展示できる「書店作り」を目標に活動しております。興味のある方は、是非下記のQRコード※をスマホで読取り、LPまで足を運んで頂ければ幸いです。

転職時には様々な葛藤がありましたが、最後に人の心を救うのは「知的好奇心」と「人との繋がりが」だと信じています。正しい倫理を持って、色々な事柄に興味を持ち、人との繋がりを大切に、まずは自分が前向きにわくわくする毎日を過ごしていこうと思っております。

趣味の話が後半を占めてしまいましたが、まずは鈴鹿高専の総務課施設係として、学生が安心・安全に快適に過ごせるキャンパス作りで、社会貢献をしていこうと思っております。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。



滋賀県に高専を

堀 康典 (H13I卒)

鈴鹿高専同窓会報2023年度誌の発刊、誠にありがとうございます。開学から61年という長期に亘り、運営に力を注いでこられた歴代の事務局の皆様方、また、それを支えてこられた多くの先輩の方々に深甚なる敬意と謝意を申し上げます。

私は、平成13年度に鈴鹿工業高等専門学校を卒業し、早いもので22年が経ちました。22年という月日は本当にあっという間、未だまだ学生気分が抜け切れていない私は週末の趣味や余暇計画をニンジンとしてぶら下げ日々の社会人生活を精進しております。高専時代に培うことができた遊びや趣味のスキルは社会人となった今も人脈開発や日々のメンタルマネジメントに大変に有用であり、学業のみを尊ぶのではなく知・徳・体の精神に表されている高専の全人格教育の賜物と感じているところです。

私は、高専時代に電子情報工学科にて情報技術を中心に学んでおりましたが、大学・大学院では少し専門を変更し電気電子工学、特に電子材料分野を専攻しました。私の在籍していた研究室ではナノ領域材料を電界放出材としてフラットパネルディスプレイ(魔語?)へ応用する研究を行っていたことから、液晶ディスプレイを手掛けるシャープ株式会社へ入社しスマートフォン等向けの中小型液晶用TFTパネルを手掛ける事業部から社会人生活を開始しました。その後、生活の変化を契機に6年間勤務したシャープ株式会社を退職、地元・滋賀県へUターンし滋賀県営用水供給事業体(県から市町へ水道水を供給する事業組織)であります滋賀県企業庁に入庁し、公務員技術者としてのキャリアをスタートさせ気が付けば今年度で13年間も勤務し、中堅(おじさん)職員として技術業務から行政業務も含めた様々な業務に従事しています。恐らく高専、特に土木・建築系学科を有しない鈴鹿高専の同窓生の皆様方には公務員技術者の認知度は低いものかと存じますが、道路や橋といった公共建設の設計・施工管理等に従事する土木・建築系技術者、公共用電気・機械設備の設計・施工管理等に従事する機

械・電気系技術者、大気・水環境の測定・調査・許認可業務等に従事する環境系技術者、公設試験研究機関に従事する技術者など行政機関の様々な分野において公務員技術者が職務を担っています。

本県職員においても土木系学科出身者を中心に高専OBが数十名在職しております。残念ながら本県職員において鈴鹿高専出身者は私1名のみであります。皆様ご存じのとおり高専出身という少数派の絆は強く他高専出身の方々とはすぐに懇意にさせて頂くことができております。

さて、北海道から沖縄県まで高専は全国に広がっている一方で、滋賀県を含めた5県では高専がありません。私のように滋賀県出身者が県境を跨いで鈴鹿高専にて学んでいた学生の姿を見てご存じだった方々もいらっしゃるのではないのでしょうか。滋賀県においては、知事の“人づくり”への思いと地元産業界等からの強い意向を受け、滋賀県発で次代の社会を支える「価値創造力と専門性、実践力を兼ね備え、協働して挑む高等専門人材」の育成を目的とした滋賀県立高専の設置準備を進めています。今年度より私も縁あって高専設置準備をミッションとする所属に配属され、カリキュラム、学校運営、学校設置認可準備、教職員採用等といった準備業務にあたっているところです。先日も鈴鹿高専の皆様方にお骨折り頂き本県職員より鈴鹿高専視察を行わせて頂き、田添先生や桑原先生といった懐かしい先生方に学校施設の案内や高専運営にあたっての様々な知識を御教示頂きました。

現在の高専教育においては、国の示す第5期科学技術基本計画にて提言された「Society5.0」の実現に向けた高専独自の人材育成事業として鈴鹿高専も協力校として採択されている「GEAR5.0」や「COMPASS5.0」といった取組が国立高専機構を軸に進められており、学生の主体的な学習や実践活動を重視されているものと存じます。現在、全国の様々な高専関係者の方々と意見交換させて頂いている中で、地域課題・行政課

題の解決や企業シーズの活用といった産学官連携やPBL(Problem Based Learning)型授業も全国の高専において積極的に導入が進められてきており、)20年前の私の在学中よりも一層の実践的技術者の育成教育を進められています。

「Society5.0」で示されている目指す社会像においては「一人ひとりの多様な幸せ(Well-Being)が実現できる社会」(近江商人の経営哲学の一つとして広く知られている”三方よし”の社会と個人的には解釈)が掲げられており、新たな社会を設計し価値創造の源泉となる「知」の創造や新しい社会を支えられる人材の育成が必要となり、また多様な幸せ(多様な課題解決)に向けてあらゆる分野の研究・技術者等の知識、技術や感性の総合的活用が必要不可欠です。これこそ国立高専が約60年間の長きにおいて継続されてきた全人格教育から輩出される実践的・創造的技術者が得意とするところではないかと考えています。

新たに設置する県立高専は、国公立高専とし

ては平成14年に新設された沖縄高専以来27年ぶりの設置となり、滋賀県チーム一丸となって令和の新しい高専を標榜し日々準備作業を進めております。

同窓生の皆様方におかれましては、高専の在り方、高専の教育について様々なご意見や思いをお持ちかと存じます。未来の社会に飛び立つ学生を育てる新しい高専を設置していくにあたり皆様方のご助言や意見交換など頂ければと考えておりますので、お気軽に私のほうまでお声かけくだされば幸いです。



滋賀県高専設置プロジェクトチームの課外活動(大杉副知事・チームリーダーを中心として)

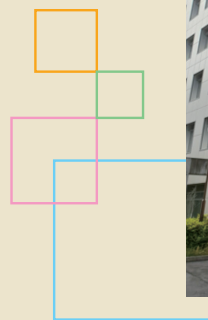
転任教員挨拶

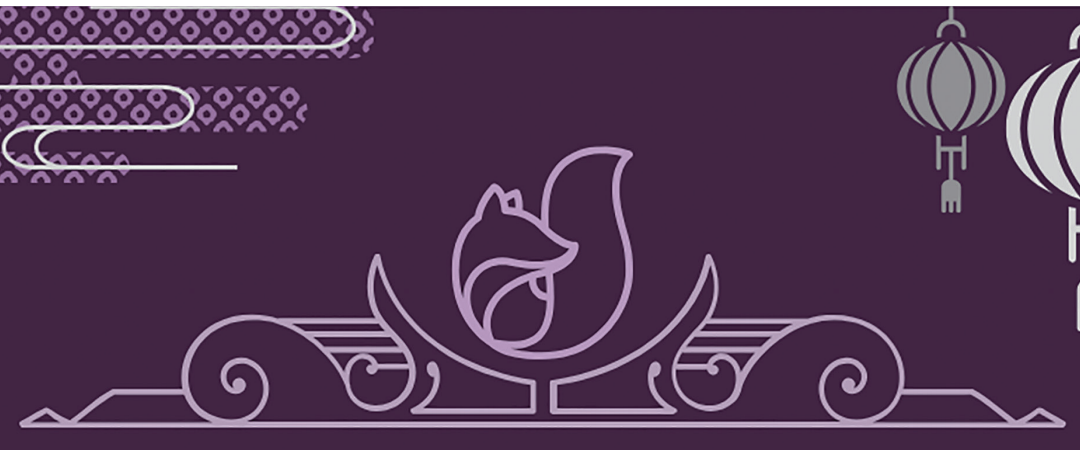
新天地より 材料工学科 小俣 香織

令和5年3月まで材料工学科に在籍しておりました小俣香織です。在職中は大変お世話になりました。

この4月に生まれ故郷の山梨県にある山梨大学工学部応用化学科に助教として着任しました。進学や就職で、山梨→東京→北海道→三重と移り住み、今回山梨県に戻ってきた訳ですが、すでに山梨を離れて15年以上が経過しているため、完全に山梨初心者になってしまっていることに気が付きました。学生の山梨トークについていけないことも多々あり、三重県の海を恋しく思う今日この頃です。鈴鹿高専の卒業生とキャンパスでばったり遭遇すると、なんだか同郷の友人に会ったようで、とても嬉しい気持ちになります。

今回の異動を通して、自分はこれまでたくさんの方々と出会ってきたこと、そしてその方々に支えられていることを改めて実感しました。あとは自分が走るだけ。そう思って、日々楽しくせわしく過ごしています。山梨にお越しの際は、どうぞ気軽にお立ち寄りください。





ジャメヴ 未視感

第58回 鈴鹿高専 高専祭

視をこぼない高専祭。新しい世界にご招待します。

開催日

2023年 10月 21日土 22日日

9:00~

場所

鈴鹿工業高等専門学校

アクセス

白子駅より徒歩28分
東旭が丘三丁目バス停より徒歩8分
駐車場有(場所未定)

お問い合わせ

HP><http://snct-fes.info>
企業>snctfesta.contact@gmail.com 個人>snctfesta.info@gmail.com

各種SNS




#KOSENFESTA

お知らせ

鈴鹿高専青峰同窓会の皆様へ

鈴鹿高専は皆さんのUターンを支援しています

本校の卒業生は約1万人となり、全国の企業、団体等で活躍されています。しかしながら、様々な事情で三重県へのUターンを考えておられる方もあるのではと、推察いたします。

鈴鹿高専では、鈴鹿高専テクノプラザ(注1)を窓口として、卒業生のUターン支援を行っております。テクノプラザには、卒業生の堀部と元教員の桑原の2名のコーディネータが在籍し、皆さんのご相談に応じております。Uターンを考えておられる卒業生の皆さん、まずは、コーディネータに声をかけてください。

三重県では県外への人材流出が見受けられ、177社の

テクノプラザ会員企業でも即戦力の技術者が不足しており、卒業生のUターンを切望しています。会員企業の多くはOB・OGが働く企業ですので、安心して仕事に取組めるといいます。

職業安定法に基づく実務は職業紹介専門企業が行います。コンサルティングを通じて、地域、職種はもちろん皆さんの技術経験、性格の理解から始め、不安なく転職頂けるサポートを準備しております。下記ホームページにアクセスください。

会員企業には中京地区企業もありますし、シニア専門職を求めている企業もあります。また、当校卒業生ならではの求人情報も開拓しています。

〈テクノプラザホームページ〉

エントリー: 登録

↓

オンライン面接

↓

面接のスキルアップ
↑
企業や職種の分析
↓
企業・職種の決定

↓

企業面接

↓

入社後のカウンセリング:
転職企業への定着支援

地元の転職専門サイトでの登録となります。
地元企業に詳しい転職サイトが不安のない転職に寄り添います。

- 適職診断、自己理解
- 履歴書、自己PR書の書き方、添削指導
- 貴方に代わって条件交渉
- カウンセリングにより、その他の心配ごとにも対応します。

会員企業見学会の様子

鈴鹿高専テクノプラザ ホームページ <https://www.suzuka-ct.ac.jp/facilities/techno-plaza/>

注1: 産学官連携で ものづくり支援 ～鈴鹿高専テクノプラザ～

22013年(平成25年)に産学官の連携を構築し、製造業の課題に寄り添った教育・研究を振興し、地元企業の発展に寄与すべく「鈴鹿高専テクノプラザ」を設立し11年目を迎えております。現在は、企業会員177社、特別会員16団体、個人会員20名です。また、テクノプラザの活動を更に充実させるために、企業会員及び個人会員の増強を進めています。

卒業生の皆様には、関係企業の会員登録にご協力頂ければ、共同研究や人材の紹介を通じて共存共栄できるかと存じます。

お問合せ・お申込みは、下記連絡先までお気軽に!

鈴鹿工業高等専門学校 総務課(鈴鹿高専テクノプラザ事務局)

TEL: 059-368-1717 E-mail: technoplaza@jim.suzuka-ct.ac.jp

コーディネータ連絡先/堀部: stillwater248@yahoo.ne.jp 桑原: hiquwa@gmail.com



2022年度 青峰同窓会 会計報告

収入の部

摘 要	金 額 (円)
・2021年度からの繰越金	28,330,299
・2022年度新入会員(2021年度 卒業生) 入会金・終身会費(205名)	2,255,000
・預金利息	449
合 計	30,585,748

支出の部

摘 要	金 額 (円)
・会報発行経費	524,874
・会報発送経費	534,156
・先進的エンジニア育成基金寄付(2022年度分)	1,000,000
・ロボコン運営寄付	499,780
・高専祭寄付	300,000
・振込手数料	880
合 計	2,859,690

繰越金

摘 要	金 額 (円)
・2023年度への繰越金	27,726,058
支出と繰越金の合計	30,585,748

編集後記

記録的な猛暑の夏、台風6、7号の大型台風の日本への接近・上陸、如何お暮しですか?

毎日のように熱中症警戒アラートが三重県にも出されていました。

仕事の遂行と体調管理を両立させること自体大変な努力が必要ですね。

去る7月15日に工業化学科4期生、通称テトラ会の同窓会を湯の山グリーンホテルで持ちました。

これが最後の同窓会だと言って集まったのですが、

終わり頃になってもう一回だけ来年も同窓会を実施しようという事でお開きになりました。

70路(ナナソジ)半ばのこの年齢になって、

一日一日を大切に送ることに最大の関心を払わねばならない年齢となりました。

皆様におかれましても、健康に留意され、自分の目指す道を邁進して下さい。 [奥]

